

羽ばたけ!! 加悦高から 輝く未来へ



加悦高

京都府立

加悦谷高等学校

【編集・発行】PTA広報委員会
平成27年2月

「祝 卒業」

PTA会長 井上 康 治



卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。保護者の皆様には、お子様の御卒業を心からお祝い申し上げます。朝早くからお弁当作りや、汗や泥まみれになったユニフォームの洗濯、送迎等とさぞかし大変なご苦労もあったと思います。18年間を経てお子様が晴れて卒業の時を迎えられ感慨も一入の事と拝察いたします。今後、お子様も夢と希望に向かって歩いて行かれる中、たくさんの人々との出会いを通して、楽しい事や苦しい事、困難など様々な体験をされていくことでしょう。自暴自棄に陥ることなく、人生を通じてさらに自分を磨き、他者や社会のために活躍される人に成長されることを願い、お子様の輝かしい未来に栄光あれと心よりお祈りいたします。

さて、お陰様で今年のPTA活動を終えることができました。これも、偏に会員・役員の皆様のご理解・ご協力の賜物だと深く感謝しております。初めての行事の取り組みとして、文化祭においてはPTA模擬店に25名のスタッフで焼きそば・うどん・フランクフルト・ポップコーンを販売し盛り上がり、生徒達も喜んでくれました。また、体育祭では競技参加も楽しんで頂き、終了後に生徒や先生、役員全員で一つの大きなスクラムの輪になり、生徒の掛け声で「加悦高最高！」と声高らかに言った時は鳥肌が立つくらい感動を受けました。また、12月の寒空の下、ボランティア後にPTAから振る舞いとして、役員の家族や先生、生徒の協力でおにぎり400個に豚汁300杯を、約270名の生徒に食べて頂きました。わいわいと楽しく、皆笑顔になり少し絆が深まったように思いました。

改めて、PTA活動にご協力頂いた皆様方に感謝とお礼を申し上げます。一年間ありがとうございました。

「旅立ちの春」

校長 北川 鯉 平

いくらか寒さもゆるみ、梅のつぼみもそろそろ膨らみそうな頃となってまいりました。PTA会員の皆様には、平素から本校の教育活動に格別の御理解・御協力・御支援をいただいておりますことを心より厚く御礼申し上げます。

卒業の時期を迎え、卒業生の保護者の皆様には、お子様の御卒業誠におめでとうございます。保護者の皆様がこれまで大切に育ててこられたお子様が、立派に本校の教育課程を終えられました。ここに至るまでの御苦労を思いますとき、その喜びはひとしおのことと拝察いたします。

さて、本年度、井上康治会長をはじめ7名の本部役員様、そして各役員の皆様には新たな取組として学校祭での模擬店やボランティア清掃時の炊き出しなど、いろいろな場面で大変御尽力をいただき、充実したPTA活動が展開されました。おかげさまで教育活動も円滑に進めることができ、大変喜んでおります。心より感謝申し上げます。

本年度も、生徒一人一人の可能性を伸ばす教育に、取り組んでまいりました。その結果、就職では、昨今大変厳しい求人状況の中、16名（内公務員2名）が就職内定をもらいました。一方、進学面においても4年制大学35名、短大・専門学校54名（内看護7名）が合格を果たしました。あと約1割の生徒が最後の挑戦をしているところであります。

また、部活動においては、ウエイトリフティング部、スキー部、書道部が全国大会で、陸上競技部、囲碁部が近畿大会で活躍しました。その他の部活動も京都府大会等で活躍しました。さらに、多くの生徒が福知山の災害ボランティアや地域でのボランティア活動に参加するなど、教室では味わえない貴重な体験を通じて成長してくれたと思います。

いよいよ旅立ちの春がやって来ました。3年生のみなさん、卒業おめでとう。これまでの頑張りに拍手を送ります。

加悦谷高校での学校生活、共に泣いたり笑ったり、時にはケンカもしたり、今となっては大切な思い出となったことと思います。手にする卒業証書には、万感の思いがこもっているに違いありません。これからは、本校で学んだことに自信と誇りを持ち、自己研鑽に励み素晴らしい人生を送ってください。

最後になりましたが、長い間本校の教育方針を御理解いただき、御協力・御支援をいただきました保護者の皆様にも再度お礼を申し上げます。これからも本校に対しまして御支援をいただきますようお願い申し上げます。

— PTA会員より — 卒業おめでとうございます

「卒業おめでとうございます」

—会員

寒い冬も終わり桜の開花を待ちわびる今日この頃、卒業を迎えられる3年生の皆様おめでとうございます。加悦谷高等学校に入学して、この3年間、校長先生をはじめ学校職員とPTA役員の皆様、ならびに子供達に携わってくださって頂いた方々にお礼申し上げます。

子供達が卒業を迎えられるのも、皆様の支えがあつてのことと深く感謝しております。

常に周りの方々のおかげで自分があるのだと感謝しながら大人になってくれればと願っています。

「卒業おめでとうございます」

—会員

卒業される3年生の皆さん、おめでとうございます。3年間の高校生活はアツと言う間の事だったでしょう。そして卒業と同時に就職・進学と新たなスタートラインに立ち、第一歩を歩むことでしょう。これからそれぞれの人生の岐路に立った時、学生時代のことを思い出し、懐かしむでしょう。大事な思い出は一生の宝となるでしょう。高校の時の友達は一生の友達！早いものでわが子も卒業となり、これからも親として応援していきたいと思えます。最後になりますがお世話になりました先生方ありがとうございました。

「卒業おめでとうございます」

—会員

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

私たちの子ども達が無事に高校3年間の学業を修め、この加悦谷高校を巣立ち、力強く羽ばたいて行く今日の良き日を迎えられましたのも、日々熱心にご指導くださった校長先生を始め、教職員の皆様方のおかげと心より深く感謝しております。

さて、卒業生の皆さんはこの加悦谷高校で過ごした3年間を振り返って、今、どんな思い出が胸に浮かんでいますか？学校祭、修学旅行、また、クラスやクラブ活動で仲間たちと共に笑い、時に気持ちのすれ違いに悩んだことでしょうか？しかし今はその一つひとつが、あなた方一人ひとりの成長を育む大切なかけがえのない思い出です。

春からの新しい環境の中で、皆さんはまた様々な経験を重ねていくことでしょう。人は一人では生きて行けないのです。人に傷つけられ悩むこともありますが、それらを癒してくれるのも、やはり人の優しさです。相手の気持ちを大切に思いやり、人の苦しみ、痛みを感じ、分かち合い、お互いを助け合えるようないい友人を、これからもたくさん作ってください。

進学、就職と進む先はさまざまですが、新しい世界への扉を開き、勇気を持って羽ばたいていく皆さんの未来に幸多かれと願っています。

「高校卒業おめでとう」

—会員

2月の寒い朝、家の外へ出ると冷たい空気が冬の匂いを運んできました。頬を真っ赤にした娘が元気に帰宅したときの匂い。抱き上げてやることもなくなってしまった今、懐かしく切なく感じられました。

小さかった長女が、高校卒業です。学習、クラブ活動、学校行事、苦しくも充実した3年間を楽しみながら頑張っていました。

正しく考える優しい娘に育って欲しい。あたりまえでありながら、かなり難しい親の勝手な思いに応えられる「人」になってくれたことに感謝しています。

名にし負う大江の山に見守られ、大切な友に出会い、多くを考え、学び、悩み、挑戦し、乗り越えた加悦谷高校での3年間は、あなたの人生の糧です。笑顔で卒業できる喜びと、多くの方への感謝を忘れず、「誰かを笑顔にできる人」になれるようがんばれ！！

いつでも応援しています。

高校卒業おめでとう。

「人生の『達人』に！」

第三学年部長 足立 浩隆



卒業おめでとうございます。3年間の加悦谷高校での生活を終え、いよいよ卒業のときを迎えました。ご家族の皆様もお喜びのことと思います。3年前に皆さんと同じ年に加悦高に赴任し、以来皆さんが私の生活の中心となり、ともに多くのことを学び、ともに発達する時間を共有してきました。3年間を振り返ると、まず最初に皆さんの笑顔が浮かんできます。とりわけ学校祭においては、新たなものを創り上げようとクラスを越えて一体となり、熱く取り組む姿が印象的でしたし、自分たちから加悦高を変えて見せようという迫力を感じました。また、それぞれの進路目標の達成のため、自分自身に真剣に向きあう姿はこちらも励まされました。

この激動の時代に、巣立っていく皆さんを私たち担任団もご家族と同じくらい期待と不安をもって送り出します。これまで皆さんが加悦高で培ってきた多くの力があれば、どんな辛い局面でもきっと乗り越えられるはずです。

これから、皆さんにとって加悦高は母校となります。嬉しいことがあったり、壁にぶち当たり辛いことがあったとき、いつでも加悦高に戻ってきてください。先生方や後輩はきっと温かく迎えてくれることでしょう。加悦高で学んだこと、経験したこと、出会った友達や先生、すべて皆さんの財産であり、大きな力となり将来の助けとなるはずです。加悦高で過ごした三年間を誇りとし、自分に自信をもち、しかし感謝の気持ちは忘れず、達観できる自分らしい人生を送ってください。さらなる活躍を祈念します。

最後になりましたが、保護者の皆様、三年間本当にありがとうございました。多方面にわたり支援をいただき大変感謝しています。本日で卒業となりますが、引き続き加悦高を地域から見守っていただきますようお願いいたします。

「新たな旅立ちに」

3年1組担任 渡邊 友紀



卒業おめでとうございます。皆さんにとって加悦谷高校で過ごした3年間は楽しいこと嬉しいことばかりでなく、きっと苦しいこと辛いこともたくさんあったことでしょう。それでも充実した高校生活であったと感じてくれていれば嬉しく思います。

入学当初は、まだまだ中学生気分が抜けず、落ち着きのないクラスだったことを思い出します。そこから、Ⅲ

類独自の研修や実習、修学旅行など集団行動を通して徐々にまとまりが出来てきたように感じられました。また、人数が少ないからこそ横のつながりが強く仲の良いクラスに成長し、人数の少なさを感じさせないパワーで後輩を引っ張り学校祭を成功させてくれました。

部活動では、全国大会等に出場して活躍した人、結果として成績を上げることができなかった人もそれぞれが目標を持ち、その目標に向かって努力を重ねたことで強くたくましく成長してくれたと思います。また、部活動を通してお互いに高めあえる大切な出会いもたくさんあったと確信します。

相田みつをの詩に「やれなかった やらなかった どっちかな」という言葉があります。皆さんがこう問われた時「やれなかった」理由(言い訳)を考えるのか、「やらなかった」自分の意思(心)の問題と考えるのか…。やろうと思えばやれることはあるはずです。最初からなんでも完璧にできる人などいません。誰でも何かしら失敗はするものです。怖がってはいけません。きっかけはどうあれ自分で決めたこと、言い訳せず目標に向かって邁進してください。

さあ、これから新たなスタートです。今、この時を当たり前のように迎えられ、当たり前で過ごしている陰には、多くの人の支えがあることを忘れないください。この当たり前がどれほど恵まれたことか、感謝の気持ちを持ってほしいと思います。ただ思っているだけでは相手に伝わりません。その思いは言葉にして伝えましょう。

3年間、色々なことがあったこのクラスで一緒に頑張ってくれたことを嬉しく思います。ありがとう。

最後になりましたが保護者の皆様、至らない点が多く不安もあったかと思いますが、この3年間ご協力をいただき本当にありがとうございました。お子様の今後のご活躍と皆様のご健康をお祈りし、最後の挨拶とさせていただきます。

「3年2組のみなさんへ」

3年2組担任 高熊 聡志



卒業おめでとう。気づけばあっという間の3年間だったのではないのでしょうか。本当にたくさんの思い出がありました。いい思い出も、悪い思い出も。そんな思い出をかき集めてこのクラスを言葉で表すと、「団結」そして「成長」がぴったりなのではないかと思えます。入学当初はお互いバラバラで、「団結」なんてほとんど見当たらず。私自身、初めての担任であったということもあり、クラスをうまくまとめることができませんでした。それが一番出てしまったのが文化祭の演劇(悲劇?)であったと思います。しかし、2年、3年と徐々に「団結」。25人、一人ひとりが様々な思いを抱きつつ、目標に向かって進

んでくれました。「団結」が最も花開いたのが3年次の学校祭、演劇の部での最優秀賞、体育祭での総合優勝と素晴らしい成績を残してくれました。しかし、どんな賞よりもうれしかったのが、仲間と衝突したり、悩んだりしながら自分たち自身で、様々な困難や課題を解決し、毎日、毎日「成長」していったことです。本当に頼もしくなってくれたと思います。自立していく皆さんを傍から見て、うれしくも少しさびしい気持ちがありました。

さて4月からは、それぞれ違った形で社会に飛び込んでいきます。これから日本や世界がどのように進んでいくのかは君たちにかかっています。様々なことに興味を持ち、自分自身で考え行動してってください。

最後に、ありきたりな言葉ですが、家族や友人、お世話になった人々に対する「感謝」を忘れずにいてください。そして、しっかりと感謝の言葉を述べてください。恥ずかしいかもしれないし、不思議な気持ちになるかもしれない。しかし皆さんが言った「ありがとう」という言葉が、多くの人を幸せにし、そしてその幸せは最終的に自分自身に戻ってきます。

ここで私からも皆さんに感謝の言葉を述べます。「ありがとう」。皆さんと「団結」し、「成長」できたことを誇りに思います。

「To Boldly Go ...」

3年3組担任 松尾 秀昭



3年生のみなさん、御卒業おめでとうございます。実際、僕自身は2年担任としてこの学校に転勤してきました。途中参加にも関わらず、この加悦谷高校とこの学年の温かい雰囲気の中に迎え入れられ、違和感なくすぐに馴染むことができました。クラスやクラブの隔たりなく、いろんな人たちといろんな話ができたと思います。個人的にはみなさんと3年間たつぷりと付き合ってきたつもりですよ…

「卒業」とは終わりではなく、ひとつの「区切り」でしかありません。言わば「通過点」です。新しい自分に生まれ変わり、新しい始まりを迎えるきっかけでしかないのです。みなさんには、加悦谷高校で培った知識や技術を土台(踏み台)として、さらに高みへと登り続けてほしいと思います。

最近では科学技術の進歩のおかげで、過去において「未知」であったことについて、その謎がどんどん解き明かされてきています。宇宙の膨張、他惑星の実態、生命の神秘、今まで信じられてきた歴史を覆すほどの発見など、今までの常識が「更新」されていく時代に生きているのです。また、情報化社会という面では様々な情報が錯綜し、善悪の判断が困難になりつつある時代とも言えます。おそらく、めまぐるしく変化する社会に身を投じたとき、何を信じるべきかという「問い」に頭を痛めると思います。しかし、その「問い」に対する答えは簡単です。他人に頼らず、「自分」を信じることです。そのためには、普

段から「自分づくり」を。様々な経験から、正しい知識と正しい判断力を身に付ける心がけを。そして、常に「挑戦する心」を忘れないでください。新しい挑戦こそ、新しい自分につながるのです。僕は、みなさんが加悦谷高校でその準備をしてきたと信じています。みなさんの前途は「無限」なのですから…

しっかりと自分の「下(立場)」を意識し、「横(仲間)」を見渡し、時には「後(思い出)」を振り返ることもよいでしょう。しかし、常に「上(理想)」を見据え、確実に「前(未来)」に進んでください。Live Long, and Prosper!

「卒業、おめでとう！」

3年4組担任 牛田るり子



「おい、るりこー！」「なあなあ、るりこ〜…」「るりこ、これどうしたらええん？」我がクラスではこの光景がすっかり日常になってしまいました。

当たり前の日々が過ぎ去っていきます。加悦高が大好きだと、加悦高を盛り上げたいと、奮闘してくれたこの学年とのお別れ日がやってきます。これほど感慨深く、また寂しく思うことはありません。

皆との出会いの日、入学式の日ことは忘れもしません。絶えず周囲の目を気にして振る舞わねばならない息苦しさ、学年全体のあちこちから感じられるような、そんな暗い印象で悲しく思ったことを…

変化が感じられるようになってきたのは1年生の終わり頃からでしょうか。2年生になると見違えるように成長が見え始め、部活動や生徒会活動、クラスの活動で自分が担うべき役割に気付き行動する姿、周囲や仲間、また自分自身との葛藤に苦しむ姿、そして、気兼ねなく友達と他愛ない話で盛り上がり、笑い合う姿が日常になっていました。3年生になってからは堂々としたもので、下級生をしっかり率いていく姿は頼もしく、体育祭の円陣はその象徴として、加悦高学校祭の歴史にしっかりと刻み込まれました。

夢を実現する、また大きな目標を達成しようとするときには、自分自身が努力することは当然のことながら、良い人間関係がなければならぬことを思い知らされます。その人間関係において使命感や責任感、勇気が湧くことで初めて、自分自身の枠や壁を超えていく瞬間を体感することができるのだと思います。年齢を重ねて社会の中で自立していく過程で、失敗する度に、自分自身の努力が足りなかったことを反省すると同時に、周囲への謙虚さが足りなかったことに気付いてください。

保護者の皆さまには、行き届かぬ担任だったかと思いますが、ひとりひとり、素晴らしい魅力を持った彼ら、彼女たちを預けていただき、お力添えもいただいてこの3年を共に過ごさせていただけたこと、言葉では尽くせない感謝の思いでいっぱいです。心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



平成26年度 修学旅行in志賀高原



上に行く その度にまた
雪の景色と 胸の高まり
変わっていく

(生徒の作品より)



感謝の言葉 各キャプテン・部長より

「私とウエイトリフティング」

ウエイトリフティング部 吉田 舜平



高校に入学してから3年間ウエイトリフティング部に所属してとても多くのことを学びました。競技のことやスポーツマンとしての行動はもちろんのこと、顧問の先生がいつも、「選手作りは人間作り」と言われています。この言葉通り社会人としての行動など競技以外の事も多く学ぶことが出来ました。

この部活に入部して選手的にも社会的にも大きく成長することが出来、将来のためのとても大きな財産になりました。これらの経験を活かせるようにしっかりとした行動をしていきます。

「感謝」

サッカー一部 松井 和弥

3年生のサッカー経験者は自分一人だけでした。もちろん経験者の多い他のチームと比べれば勝った試合の方が少なかったです。

キャプテンになってからは、キャプテンとして、経験者として部員みんなに教えられることは何か、どうすれば早く上達することができるのか、模索しながらの毎日でした。しかし部員みんなは積極的に分からないこと、知らないことを聞いてくれました。当時の自分にすればそれは助けになりました。

また、多くの3年生の引退試合となる総体では、サッカー一部が勝利する姿を加悦高生みんなに観てもらおうことができ、良い形で3年生が引退することができたと思います。

自分の思っていたよりもキャプテンの責任感は大きいもので、途中で辞めたくなることもありましたが、必ず自分が最後までやり遂げたいという思いから続けることができました。

サッカーを通して、仲間の大切さ、前向きに良いイメージを持つことの大切さを学べました。



顧問の先生、サッカー部に携わっていただいた方々にはとても感謝しています。

学んだこと、感謝を忘れずに将来、頑張っていきたいです。

「全員バレー」

女子バレー部 中田 未来



バレー部に入部し、最初は慣れない部活に苦しみ、辞めたいと思う時もありました。私の高校3年間の部活は一瞬のうちに終わりました。そんな時に支えてくれた家族、チームの仲間のおかげで辛かった練習も乗り越えてこれました。

私たちの代の目標は府下大会出場でしたが、一度も出場することが出来ずに終わってしまいました。しかし、そのために頑張ってきた毎日の厳しく辛い練習やトレーニングは無駄ではなかったと思います。キャプテンを任された頃の私に足りないものは「自信」と「思いを伝える力」で、自分の力のなさに思い悩みました。そこで、自分が何でも一番に行動し、先頭に立ってチームを引っばっていき努力をすることにしました。振り返ってみると頼りないキャプテンでしたが一緒になってチームを引っ張ってくれた同級生や厳しいことも言って辛い思いをさせた後輩、私が強くなれるように指導して下さった先生方のおかげで最後まで諦めずにバレーボールをすることが出来ました。高校の部活を通して技術だけでなく礼儀やマナー、人に感謝することを学びました。また、周りを見て行動し、自分が今、何をしなければならぬかということ、仲間の気持ちを考えることなども学びました。高校の部活は自分を一番成長させてくれた場所でした。また、何より仲間と毎日、真剣にバレーができたことが私の宝物です。本当にありがとうございました。

「感謝の気持ち」

硬式野球部 池本 京生

私は、3年間硬式野球部に所属し、主将を務めました。この3年間の高校野球において、数えきれない程、多くのことを学びました。技術、礼儀はもちろん、一番学んだことは、周りにいる人々に支えられていると感じ、感謝



する大切さです。辛い時も楽しいときもずっと共にグラウンドでプレーした仲間。陰からいつも笑顔で支えてくれたマネージャー。野球選手として、時には人間とし

ても正面から向き合ってくれた顧問の先生方。そして、一番の支えである家族。上手いかわなくて、当たってしまうこともありましたが、常に笑顔で温かく見守ってくれました。このように、いつも支えてくれる人がいることを理解し、感謝の気持ちをいつまで持ち続けたいと思います。

「感謝」

陸上競技部 藤田 梨沙

私は、陸上競技部のキャプテンとしてチームをまとめることに力を入れました。私はあまり上手にまとめる事ができない時もありましたが、チームの皆がキャプテンである私についてきてくれた時は、「もっと頑張ろう」と思いました。試合では、お互いを応援しあい、その応援がとても力になりました。陸上競技は個人競技ではありますが、一人で戦うことはできないと思いました。また合宿では、色々な学校の選手と交流でき、多くの友達が出来ました。練習の面でも高めあうことができ、しんどい練習でも皆がいたからこそ乗り越えられました。私が特に鍛えられたのがメンタルの部分だと思います。陸上競技を通して鍛えられたことが学校生活の中でも役立ち、陸上競技をしていてよかったと思います。

私が陸上競技をする中で特に大切だと思ったのは感謝の心です。「陸上競技をしている」ではなく、「させてもらっている」のだと気づかされました。支えてくれている家族、仲間、先生のおかげだと思います。ありがとうございました。

「3年間を振り返って」

男子バスケットボール部 大山 優

私は、3年間男子バスケットボール部に所属していました。高校3年間の部活は一瞬で、入部したのもつい先日のように感じました。先輩方もいい人ばかりで、友達のようにでした。先輩方のおかげでインターハイとウィンターカップと二度も府下大会に出場することができとてもいい経験になりました。先輩方が引退されてからは、なかなか試合に勝つことができず、当時の監督をされていた加藤先生の期待に応えることができませんでした。負けてばかりのチームで、同級生と言いつつ、後輩ともめることもありましたが、私は同級生のおかげで高校生活を楽しむことができたのでとても感謝しています。今まで色々な方に応援していただきありがとうございました。皆さんこれからも加悦谷高校バスケットボール部をよろしくお願ひします。最後に加藤先生、鍵先生、保護者の皆さん本当にありがとうございました。

「キャプテンを経験して」

バスケットボール部女子 中野 沙紀

高校に入学する前、私は部活に入る予定はなく、友達に誘われたのがきっかけでバスケットボール部に入部しました。1年生の頃は、何から何まで先輩に教わり、練習についていくのが必死でした。2年生になり後輩ができ、先輩が引退すると同時に私がキャプテンになり、不安ばかりでした。人をまとめたり指示するのが苦手な私は、先輩や部員に相談することもありました。そんな私が最後までキャ

プテンをすることができたのは、周りのみんなが支えてくれたおかげです。

この3年間、つらかったこと悩んだことがたくさんありました。しかし、その分学んだこともたくさんあり、成長することもできました。なので今では、キャプテンという貴重な経験をさせてもらったこと、そしてお世話になった先生や部員にとっても感謝しています。

「キャプテンをして学んだこと」

ソフトテニス男子 古橋 泰地

私がキャプテンをして学んだことは、練習中に良い雰囲気を作る大切さ、そしてクラブ活動を応援してくださる方々への感謝の気持ちです。

私が一年生のときには、部活動の雰囲気はとても良く、先輩のキャプテンをしている姿を見て、私もキャプテンを志すようになりました。

キャプテンになった最初の頃は、部員がついてきてくれないこともありましたが、自ら率先して練習の雰囲気を作る努力をすることで、徐々についてきてくれるようになりました。練習の雰囲気も良くなっていくと、それに伴いチームの力も伸びていき、念願の府下大会に出場することもできました。

また、私たちが府下大会に出場できたのは、多くの方々の支えがあったからです。卒業した先輩方や保護者の方々に大会に来てもらい、たくさんの応援をいただきました。その応援があったおかげで勝つことができた試合もありました。本当にありがとうございました。

キャプテンを通して、たくさんのことを学び、成長することができました。進学して、社会に出てからも、部活動から学んだことを活かしていきたいです。

「キャプテンとして感じたこと」

ソフトテニス女子 西山 美里

新チームになり、私がキャプテンを任せてもらったとき、自分に部をまとめたり、引っ張ったりしていけるのか、とても不安でした。先輩方が引退されてから、人数も少なくなり、最初は自分たちだけでは練習が十分にできず、大変なこともたくさんありました。それでも続けてこられたのは、周りの人たちの支えがあったからだだと思います。



私たちを励まし指導して下さった顧問の先生方、頼りないキャプテンを支えてくれた部員みんな、その他多くの人たちのおかげで、最後までやり切ることができ

ました。そして、そこからたくさんのことを学び、成長することもできました。

このメンバーで部活ができて良かったです。本当に感謝でいっぱいです。ありがとうございました。

「クラブ活動で学んだこと」

卓球部 木崎 海仁

私は3年間のクラブ活動を通して、仲間と一つの目標に向かって努力する大切さを学びました。先輩方が大会で良い成績を収められ、私は強いチームを継続できるのか不安になりました。最初は何度も負けましたが、その度にチームの雰囲気が良くなっていき、府下大会という目標に向けて全員で努力できる強いチームになったと感じるようになりました。

進学先では、一人ではなく、みんなで頑張ることを大切にしていきたいと思います。

「感謝」

ソフトボール同好会 小巻 恵美

私はソフトボールをするために加悦谷高校Ⅲ類に入学しました。でも、加悦高にはソフトボール部がなく、私の夢の実現のためには、ソフトボール部を創ることからしなくてはなりません。まず、人数を集めることから始めましたが、なかなか人が集まらず、最初から困難がやってきました。しかし、多くの人の協力によりギリギリの人数で同好会という形で発足することができ、みんなで練習することができました。

最初は、バットもボールも十分でなく、一から自分たちで何とかしなくてはならず、苦労は多かったです。1年の9月から外部コーチに来てもらえるようになってからは、これまでより濃い練習ができ嬉しく思いました。人数が足りずに他の高校と合同チームで出場しましたが、結成から1年半で単独チームで待望の公式戦1勝し、最後の大会となる3年の両丹総合体育大会ではブロック準優勝という大きな勲章を得ることができました。今思うと、このように部が創れたことも、試合ができたことも顧問の先生や外部コーチ、試合ではいつも送迎、応援してくれた家族、そして創部からいつも一緒に辛い時期を何度も乗り越えてきたメンバーの支えがあったからこそだと思います。

チームを一から創り上げていき、チームをまとめることの難しさや、さまざまなプレッシャーから逃げ出したいことも度々ありましたが、何とか踏みとどまり、困難に立ち向かって頑張ることができたと思っています。この3年間の部活を通じて、ちょっとしたことではくじけず強い気持ちを持ち、何事にも挑むことができるようになったと思っています。加悦谷高校ソフトボール同好会のメンバーをはじめ、支えていただいた方々に本当に感謝の気持ちいっぱいで卒業でき嬉しく思っています。

「合唱部での3年間」

合唱部 金谷 英梨菜

私は元々、小学生の時に合唱団に入っていたこともあり、歌が好きでした。新入生歓迎会で先輩方の合唱を聴いて、少ない人数なのに声量があり、美しい歌声で、私もこの様に歌いたいという憧れの気持ちから、合唱部に入部しました。しかし、入部して思い知ったのは、歌が好きとか楽しいという軽い気持ちだけではやっていけないという事でした。高校の合唱部では、コンクールを大きな目標として活動していて、一つ一つが細かく、厳しい指導の上の練習で、



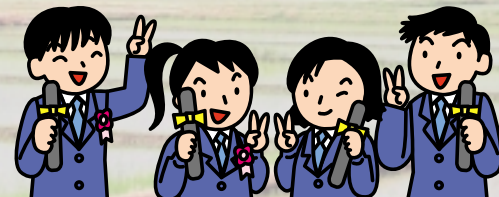
挫けそうになる事がたくさんありました。そのたびに先輩が励ましてくださり、出来るようになるまで、教えていただきました。2年生になり、後輩ができ、私が教えていく立場になりました。その年のコンクールでは卒業された先輩の力の大きさや、もっと努力が必要だということを感じました。3年生では、小学校に歌いに行ったり、ベートーベンの第九を歌うコンサートに参加するなど、様々な経験をする事が出来ました。この3年間で、仲間との協力の大切さや、諦めずに努力をし続けることの大切さを学びました。最後に、いままでの3年間、毎日ご指導くださった牛田先生、お忙しい中音楽室に足を運んでくださった吉岡先生、ご指導しに来てくださった先輩方、いつも支えてくれた家族に心から感謝をしています。ありがとうございました。

「吹奏楽部で過ごした3年間」

吹奏楽部 館脇 成美



私が吹奏楽部で過ごした3年間はあっという間でした。先輩方が引退され、私が部長になって新体制が始まった頃、部員がなかなかまとまらず、毎日が不安でいっぱいでした。そんな時に、一番の心の支えとなったのは、3年間ともに過ごした仲間との存在でした。意見がくい違い、なかなか話が進まず悩んだこともありましたが、どんな時でも皆で話し合い、互いに励まし合い、協力しながら乗り越えてきました。部活動を通して、さまざまなことを経験することができ、成長することができました。活動の中でお世話になった顧問の先生を始めとする先生方、いつもそばにいてくれた家族や友人、地域の方には本当に感謝しています。現在、部員数は十名程度と少ないですが、これからますます飛躍してくれることを心から期待しています。今まで本当にありがとうございました。



「3年間」

囲碁部 上田 亮皓



私が囲碁部にいた3年間は、とても充実したものでした。私一人の力ではここまで充実した生活は過ごせなかったと思っています。楽しい日々を送ることができたのは、顧問の先生方と後輩のおかげです。

私が1年生のときは入部してから先輩がいないことを知り、何から始めればいいのかわからなかったのですが、先生のアドバイスでしっかり活動することができました。部活なのでもちろん大会もあり、大会が近づいてくるとより多くの時間を部活にあてるようにしてくれました。

2年生になると顧問は変わり、新入部員が入ってきました。私が中学生の時はあまり後輩と接する機会が無かったので、部活で人に教えることは初めて経験し、人に教えることの難しさを知ることができました。それに加えて、一年生の時は部活を一人ですることが少なくなかったのですが、部員が一人増えるだけでも毎日がとても楽しくなりました。顧問の先生も顔を出すだけでも来てくれる日が多くなり、囲碁部は賑やかになりました。

3年生になり、新入部員は入りませんが後輩は日増しに強くなり、先生も久しぶりに打つと、とても強くなっていたりして、ますます賑やかになりました。私は最後の年なのでより気合をいれて、近畿大会では勝ち越しで終わることができました。

この3年間で顧問の先生だけではなく、前校長先生と副校長先生も時間が出来れば来てくださって、勉強になることばかり教えていただきました。

私が過ごした日々は楽しく、貴重な経験で、忘れない思い出になりました。先生方と後輩、囲碁部を応援してくださったみなさん、ありがとうございました。

「部活動を振り返って」

ESS部 後藤 絵理香

私がESSに入って良かったと思うことは、本物の英語に触れることができたということです。初めて外国の人と手紙を書いた時は緊張があったりどう書いたらいいか悩みましたが、返事が来た時は相手が私にいくつか質問してくれ嬉しかったです。またアベリスツイスの高校生と加悦谷高校で交流した時つたない言葉でしたが会話ができました。そして何よりAETの先生と話すことができたことは本当に良い経験になりました。言いたい事を伝えるのは難しいですが伝わった時はとても嬉しかったです。

一年と少し部長をして人をまとめる事や何かを企画する事の大変さを感じました。困った時に仲間の助けが何よりの救いでした。たくさん後輩とおもしろくて、明るいAETの先生方、丁寧に指導くださった顧問の先生方、そして友達とたくさん英語に楽しく触れられたことに感謝したいです。

「3年間で学んだこと」

美術部 安田 梨奈

美術部は私が入部した時は人数も少なく少人数での部活動でしたが、無事後輩も入部し、部活動中は楽しく賑やか



に取り組むことができました。野外での活動はデッサンコンクールや丹後文化祭典などで、自分の作品の評価をしてもらったり、他の人の作品を見ることができたのでとても良い経験になりました。私が入部した時、上級生が少なく不安もありましたが、的確な指示や絵のアドバイスなどを教えていただきました。私は今でも先輩を尊敬しています。私自身、部長として至らなかった点もあったと思いますが、部員や先生達が支えてくれたので感謝しています。美術部で得た経験を社会で生かせるようにこれからも、もっと努力していこうと思います。

「書は恋人」

書道部 糸井 萌里実

私が書道部に入ったきっかけは、先輩の作品を見てかっこいい！自分もこんな作品を書いてみたいと思ったからです。加悦高で書道をするために加悦高へ来たと言っても過言ではありません。しかし、書道はそんな簡単なものではないことに気づくのに時間はかかりませんでした。

書というものは多様で見る側の好悪によって評価が異なります。数学のように答えがあればなあって思う時もありました。そんな時に私を前向きにしてくれたのは後輩の一言でした。「賞は取れなくても先輩の作品が一番素敵です。先輩は私の憧れです。」私自身、先輩に憧れて書道部に入ったので、私が先輩のことをそう思っていたように後輩もそう思ってくれているんだ。誰かの憧れになれたことがとても嬉しかったです。そして、自分の作品を支持してくれている人がいることが自信にもなりました。

書道を通して学んだことはたくさんあります。努力することの大切さ。目標が達成できなかった時の悔しさ。入部した時から仲間と全国に行こうと誓い合い、夢がかなった時の嬉しさ。部長としての責任感。部員一人一人と向き合って相談にのったり、励まし合ったり…。多くの経験で少し成長できたことに感謝しています。正直、書道部を辞めたくないです。書道が大好きです。加悦高の書道部員であったことは私の誇りです。

今まで支えてくれた周りの方々、ほんとうにありがとうございました。





3年Ⅲ類スケート実習 1月16日



Ⅲ類卒業研究発表会 1月15日

三学期を振り返って



1年百人一首大会 1月30日



1年薬物乱用防止教室 1月16日



1年リーディングコンテスト 1月16日

編集
後記

役員を引継いでからあっという間に1年が過ぎ、皆さんには何かとPTA活動にご協力を頂き有難うございました。また3年生の皆さん卒業おめでとうございます。加悦高で学んだ事・友達を大切に1歩1歩頑張ってください。今後もPTA活動に対してご協力を宜しくお願いします。

